

シモマチノシヨウ 下町野庄 承久三年注進の能登國田數目録珠洲郡の中に、『下町野庄、五町六段、久安元年立券狀』と見える。後世下町野郷は鳳至郡に屬してゐる。

シモムギクチ 下麥口 ガシモム 能美郡輕海郷に屬する部落。

シモムラノジンヤ 下村の陣屋 貞享元年七月廿五日能登に於ける土方伊賀守雄隆の領地を沒收した時、八月幕府から勘定役山中喜兵衛・竹村九郎衛門等が出役して之を受取り、次いで飯川保下村に陣屋を設け、井狩十助その代官となり、常には手代を置いた。同村小字狐塚の稻荷社は、東照宮を同殿に祀つたので、元祿十五年この陣屋の鎮守として勸請したものであつた。享保七年六月幕府領を加賀藩に預けたるを以て、下村の陣屋を廢し、府中村に藩の御預所役所を設けた。

シモムラヒヨウシロウ 下村兵四郎 ↓イタヤヒヨウシロウ 板屋兵四郎。

シモムラモトカタ 下村幹方 通稱九郎太夫。御算用場に勤仕し、後小頭に進んで新知八十石を受けた。明和九年五月六日歿、享年六十九。幹方は三池流算法を西永廣林に受け、明和七年十一月廣林の著段數不知明解によつて段數不知明解口授を著した。

シモモリ 下森 鹿島郡矢田の内の小字。  
シモモリジマ 下森島 石川郡森島の内の小字。

シモヤサト 下八里 能美郡德橋郷に屬する部落。

シモヤシキ 下屋敷 加賀藩の江戸に於ける下屋敷は、初め本郷邸即ち神田邸とも上野別墅ともいうたものであつた。その賜邸の年

紀は前田利常の時元和二三年の頃であらうといはれる。天和三年加賀藩は、從來の上屋敷たる辰口邸が焼けたから、三月廿一日本郷邸を上屋敷に當て、同時に平尾邸を下屋敷としたが、平尾邸は延寶七年二月初めて幕府から受けたものであつた。藩の末期に於いては、平尾邸のことを板橋邸とも呼んでゐた。明治元年十二月築地邸を上屋敷、本郷邸を中屋敷とした際にも、平尾(板橋)邸は依然下屋敷といはれたが、三年八月平尾邸を私邸と稱したから、下屋敷の號は消滅した。

シモヤシキ 下屋敷 加賀藩では知行の巨大なる士に對し、下屋敷と稱する一地區を興へた。今慶長十六年の下屋敷を見るに、五千石高島右京亮、一町二段半。一万五千石横山山城守、三町七段半。五千石横山式部少輔、一町二段半。一万七千石山崎市正、四町二段半。一万七千石石井出雲守、四町三段二十五步。一万三千石長九郎左衛門、八町二段半。二万四千五百石中川大隅守、六町一段二十五步。七千二百五十石三輪志摩守、一町八段一畝七步半。六千石小幡駿河守、一町五段。五千石奥村周防守、一町二段半。六千九百石石野讃岐守、一町七段二十五步。三千九百石加藤石見守、九段七畝十五步。五千五百石奥野紀伊守、一町三段七畝十五步。四千石玉井市正、一町。と記されてゐる。次いで元和二年知行三千石以上の人持組の士に下屋敷を興へることとし、萬治三年卯月廿二日には、『下屋敷之儀、與力知共三千石迄之知行高に候はば、自分屋敷者三千石之當り歩高被下、下屋敷は被下間敷事。』と規定せられた。この下屋敷は分割して陪隸を住居せしめ、それを何某

の家中と呼んで、町名を附けなかつた。  
シモヤスエ 下安江 石川郡敷月庄に屬する部落。舊傳に、昔上安江の村落は金澤安江町の地に在り、下安江の村落は穴水町の地に在つたが、慶長中兩村共に現在の所に移轉せしめられたといはれる。

シモヤスハラ 下安原 石川郡大野庄に屬する部落。寶永誌に、この村領濱手に太閤殿といふ所があつて、秀吉の休息した所であると記してゐる。又加賀古跡考に、金澤城の廣式に妊婦ある時は、この村から産婦の糞を上る例であつたとある。↓カミヤスハラ 上安原。

シモヤタ 下矢田 河北郡英田郷に屬する部落。

シモヤマ 下山 ↓シモシラヤマ 下白山。  
シモヤマ 下山 鳳至郡七浦庄に屬する部落。

シモヤマイシ 下山石 鳳至郡下山に産する石材。瀧尻石とも稱する。帶黄綠色砂岩で、質は甚だ堅い。

シモヤマカシマシヤ 下山鹿島社 鳳至郡下山に鎮座した。能登名跡志に、『下山村云々。鹿島明神なり。要石とてあり。此所はいかなる地震にも動くことなし。』とあつて、この鹿島社は今白山神社と稱するものであらう。

シモヤマダ 下山田 河北郡英田郷に屬する部落。元文の産物書上帳に、この村の田の底に木葉の朽ちたる如き黒色の土があつて、之を乾燥して焚けば燃えたとある。  
シモユガハ 下湯川 鹿島郡上湯川の内の小字。

シモヨシダ 下吉田 羽咋郡吉田(今南吉田)の内の小字。

シモヨシタニ 下吉谷 能美郡山上郷に屬する部落。寛永十五年この關所を設け原典三右衛門をして守らせたが、後に間道あるを以て河原山に轉せしめた。

シモヨシノ 下吉野 石川郡吉野の内の小字。

シモワクナミ 下涌波 河北郡井上庄に屬する部落。

シモヲシハラ 下鷺原 石川郡岸川庄に屬する部落。

シヤ 赦 ↓タイシヤ 大赦。

シヤカガダケ 釋迦ヶ岳 白山御前岳から西に在る能美郡の山。一名白山釋迦ヶ岳。高さ二〇五三米。地質角閃安山岩。

シヤカドウ 釋迦堂 羽咋郡堀松庄に屬する部落。能登名跡志に、『釋迦堂村の民宮は、御神體丈六の釋迦如來也。則社地は大寺の跡なりとて、礎等残り有。』とあつて、この神社は、今八幡神社となつて居る。

シヤクアンドウコウ 寂菴道光 金澤曹洞宗寶圓寺十六代の住持。生國は伯耆。享保廿二年十二月越中氷見光禪寺より進山し、延享三年十月隱居、寶曆五年十二月一日遷化した。

シヤクガイケ 尺ヶ池 鳳至郡浦上の内の小字。

シヤクカイマル 錫懷丸 ↓ハツキマル 發機丸。

シヤクギン 借銀 ↓カンギン 貸銀。

シヤクサキ しゃく崎 珠洲郡折戸の部落西方に在る岬。

シヤクシタウゲ 杓子峠 鹿島郡二宮の部